

平成 23 年度 図書館協議会 臨時会 議事録

平成 23 年 11 月 15 日 (火)

午後 2 時 00 分

中央図書館 2 階 講 堂

- 事務局 本日は、お忙しいところお集まり頂き誠にありがとうございます。
ただ今から図書館協議会(臨時)を開催いたします。
10名の委員さんのうち現在7名のご出席を頂いておりますので「苫小牧市立図書館規則第17条第4項」により開催が成立しております。
はじめに、館長よりご挨拶申し上げます。
- 館 長 <挨拶>
- 事務局 それでは、早速会議に入らせていただきますが、これより会長の進行によりお願いしたいと存じます。会長よろしくお願い致します。
- 議 長 前回に続き、今回も話の中身は中央図書館への指定管理者制度の導入について、この一点でございます。色々お話しありますけれども遅くとも4時には終了したいと考えています。案件に沿って皆さんのお話しを伺いながら進めたいと思います。まず、最初に9月1日から今までの経過報告ということで館長のほうからお話頂きたいと思います。
- 館 長 本日は定例会をあわせますと3回目ということで、この間、8月18日の学習会を経て、「指定管理者制度」に関する概要及び本市における取組み、並びに本館の運営状況などお話しをさせていただきました。本当に上辺だけの不十分な説明で申し訳ないと思います。具体的な内容をお示ししなければ、なかなか難しいものと考えておりますので、今後の会議を含め逐次説明を重ねさせていただくことで、ご理解を賜りたいと思います。これらの経過につきまして、9月15日開催されました社会教育委員会議の席上において報告をさせていただきました。
この報告につきましては今年3月の社会教育委員会議の席上でも触れられていた経過がございましたので、議題ではなかったのですが、今年度の経過ということでご報告させていただきました。なお、本件の同会議における取り扱いについては、今後の社会教育委員会議の意向に委ねたいと思います。
次に、先週になりますが、部内検討委員会が開かれました。ここにおきましても、経過を報告し今後の検討委員会の位置付け、進め方、方向性について確認され、あわせて実務的な課題確認を行いました。
また、最近寄せられる利用者からのご意見なども時間があれば触れさせていただければと思っております。これらの課題につきましては、表現整理や関係部局との調整なども要すること、あわせて簡単に結論を出せない問題などを含むことから、少し時間を

頂き整理したうえで、協議会委員の皆様には説明をさせていただきたいと考えております。なお、既に導入されている市立釧路図書館の視察を先月行いました。これは、市総務部の職員と副主幹と私で図書館を取巻く環境や導入経過など「釧路市こども遊学館」の例もあわせてお話しを聞いて参りました。機会があれば利用者の皆さんの声などもあわせて、お話しさせていただきたいと思っております。

議 長 はい、ありがとうございます。ただ今最近の動きについて説明がありました。ただ今の説明についてはよろしいでしょうか。何か、確認しておきたい点などあればお受けしたいと思っておりますが…。

一点、私のほうから教えて欲しいのですが、社会教育委員会議の件で、さきほど9月1日までの経過を説明され、今後については社会教育委員会議の意向に委ねるということですが、その意味がちょっと分からなかったのですが。

館 長 社会教育委員会議として、この図書館への指定管理者制度導入に関する問題を、どのように扱うかということはまだ定まっておられません。従いまして、今後の社会教育委員会議の中で、どのようにしていくかということが見えてくれば、会議の意向に沿いたいということでございます。意見だとか、質問だとかが出てくれば対応しなければならぬと思っておりますが、まだ見えていないものですから…。そこの判断に委ねたいと。

議 長 ということは、社会教育委員会議で話さないかもしれないし、意見をまとめてみようとなるかもしれないし、ということで。それを委ねるということですね。

館 長 はい。

議 長 ほかにはどうでしょうか。…

それでは、後ほどまた経過を含めてお伺いする時間も取れるかと思っておりますので…。次に意見交換ということになっていますが、そのあたりは、どのようにお考えですか。

館 長 はい。今までの説明が不十分であり、皆さんからの意見を頂くことには無理があるとは承知しておりますが、いつもこちらから一方的な説明ばかりかなと感じています。ここでは、本件に関して皆さんの疑問や、感じておられる課題など、どのような形でも構いませんので忌憚のないご意見や、ご質問、問題提起をしていただく場にさせていただければと考えておりますが…。少し漠然としておりますが、今までに交わされた会議の中で何点かに絞っての議論が、例えば、「運営経費」の問題とか「専門性」の問題、あるいは先日の会議でもありましたが、「本当に苦小牧に必要な図書館ってどんなものなのか」などあると思っておりますが、皆さんが普段の仕事の中で、生活の中で、地域の中で感じておられることなど何でも良いと思っております。

議 長 はい。ありがとうございます。実は9月1日の臨時会のときにも色々な課題・質問があったり、それから図書館はこうあるべきじゃないのか、というお話しなんかも少しずつ意

見は出されていたんですけれども、定例会のときにもそういうお話がありました。こうした中でやはり話しが形になって、まとまっていかなのかなという感じがしておりまして、今日は、もし良ければ理想の市立図書館というものがどうあるべきか、というあたりを図書館協議会として、形にしていくために皆さんから自由に意見を頂けたらなあ～というように思っております。それで前回までに話しがあったことを私の方でまとめてみました。色んな話題が合って、それから皆さんが一同に集まる事が出来なかったものから、今日とこれからの話し合いを整理する意味でまとめました。

<資料により説明>

- (1) 図書館協議会が話し合う内容は何か
- (2) これまで出された話題、問題

これらが、問題点として今まで主に話題になっていたことかなと思いました。とにかく、前回までまとめることはまだしません、としていましたので、まとめたものはありません。ですが、こういうことが出ていました。それから今日の話はこの話の流れで行くと、図書館がどうあるべきかということをお話しいただきながら、もちろん皆さんがお考えになって、まだ疑問点もあるかと思えます。そういうことも含めてお話を頂くと、それから疑問点に関しても、直ぐにお答えいただける部分があればお答え頂き、大きな部分についてはこれからの課題ということで、加えていきたいと思っております。雑駁ですがこのような確認をさせていただいて、この中央図書館が私達にとって、市民にとってこうあるべきだと、こうあってほしいということ、皆さんの立場や利用者としてのことでも結構ですし、そのあたりをまず頂いてあわせて普段、疑問に感じておられる部分もお話しさせていただきたいと思っております。委員順番にお願いしたいと思えます。どうぞ自由な形でお願いしたいと思えます。

委員

はい、理想像ですね。今お示しいただいた資料ですけれども、ウの「頼りがいのある文化の拠点」というのは、私も本当にそう思います。言葉を変えれば、とって居心地のいい場所とか未来を考えるヒントのある場所、あるいは気軽に色んなことを尋ねたりできる専門性の高い司書さんがいて、何時でも聞いて確かめることが出来る場所、そういう漠然としたイメージですけれども、そういう図書館であって欲しいと思っております。次のアですけれども、レファレンスですけれども、こちらから尋ねて調べていただくレファレンスはもちろんなんですけれども、今の社会事情で行くと興味関心のある市民が、興味関心あることを更に引出して、色々調べることが出来る場所。例えば今ですとTPPの問題ですとか、賛否両論ある中でそういう資料だとか、例えば新聞の切り抜きだとか、行政資料だとか本に限らずTPPって何だろうって色んな角度から見た資料が揃っていて、自分で調べたいなと思えばそこから引出すことが出来るみたいな。例えばインフルエンザがこれから流行る気配がありそうだと思えば、インフルエンザに関しての新しい情報が図書館に行けば掴めるよ、ということも。

そういう意味では能動的なレファレンスでなく、こちらか聞くだけでなく、興味関心を更に引出し市民がより深められるレファレンスそういうところまで、やっていただけるよう

な図書館になっていただければ、とても嬉しいなと思います。あと個人的には苦小牧市民になって、ここで子どもを産み、子どもが赤ちゃんの頃から赤ちゃん絵本に親しみ、そして今も読書活動推進ということで、個人的には読み聞かせ活動を続けているんですけども、その中で図書館というのは読書活動の拠点であって、幼稚園・小学校・中学校と、上がる中で学校だとか、私達民間のボランティアをやっている、読み聞かせの連携とか、そういう点では連携をスムーズにいて、活力を生み出して我々の活動もさらに活発になり、苦小牧全体がまた読書活動が上がっていくための、基本的な拠点であって欲しいと思っています。そういう点では現在もやらせていただいて、学校のNDCも問題だとか少しづつですけども、一緒にやらせていただいて、成果を上げてきていますけれども、それを更に深めて、もっと活発に出来るような施設になり、そして私達も協力できるようになったらいいなと思っています。ですから押しなべて言うと図書館というのは、地域を支える文化の拠点であり、地域を支える情報の拠点になって欲しい。そのためには、直接能力と結びつけるわけではありませんが、読書活動を推進して、自分の考えを自分の言葉で述べる子供達をつくっていくというのが、直接能力を高めることと無縁ではないと思っておりますので、人材を育て街がより明るく元気に暮らしやすいようになっていくためには、人間力を高めることに繋がっていくと思うので、そういう点では図書館というのは要になっていく施設ではないかなと思っていますし、そうなって欲しいと思います。

議長 はい、ありがとうございます。おしまいの部分では学校教育の部分であるのかなと聞いていました。学習指導要領が変わりまして、言語活動に充実というのが謳われまして、従来国語がその役割を担っていたものがそれでは足りない、全教科、全領域で言語活動の充実を図るようになりまして、今盛んに行われているのは算数の勉強をしながら、自分の考えを自分の言葉で説明して、それが相手にどれだけわかってもらえるのか。そんな言葉が大事にした活動になっています。ただ今のお話で、言葉というものが学校だけではなく、地域の中で図書館というのが中心に、拠点になっている、子供達にとって、なったらいいなと私も教員として共感できる部分だと聞いていました。

それでは、次をお願い致します。

委員 私は、ただ今のお話のような中身が分かっていない感じがしますが、理想としては素晴らしいことなんですけれども。一応苦小牧は指定管理導入ということで話しが進めてるんですよ。

議長 行政サイドで進めているということですね。検討していますよね。

委員 まだ、検討なんですか。そういうことであれば、今委員さんが素晴らしいことをおっしゃっていましたが、図書館というのは、もちろん小さい子どもの、小さいときからの学校も関係していますけれども、いかに子供達が図書館に、大人もそうですけれども図書館に足を運ぶことによって、自分の色んなことを高めるには素晴らしいと思うん

ですけれども。そこに来るまでの理想ばかり言われてられなくて、現実にはいかに皆さんが図書館を利用できるのか、利用されるというか、そういうことはすごく大事だと思うんですよね。私は図書館の制度導入についてはあまり知識もないんですけれども、とにかく小さいときからどうやって沢山の方が足を運んで、自分の勉強したいことや知識を得ることを、図書館を拠点にしていくんでしょから。どうしたら沢山利用されていくかということが疑問に思います。そのところをどうやって開拓していくのかということです。

議長 はい、とても根源的な部分といいますか、いかに施設が立派で制度がしっかりしていても、利用されなければそれは意味がないわけですから。

委員 理想ばかり掲げていても、一番原点に戻って、いかに利用させていくかが、今の子供達は活字離れでも進んでいますしね、そして、パソコンやゲームなんか、そういう傾向にあるので、どんどん図書館を利用していくということが減っていくんじゃないかという感じがありますよね。

議長 図書館に来ればいろんなことが出来る、色んなものがあって図書館の中のサービスとして充実しているのかもしれないけれども、そこに来ない子供達や大人が沢山いたら、もったいないですよね。その点で図書館としては立派なものがあったとしても、先ほどの話しがあったように図書館の役割というか、図書館は図書館の中だけでサービスをして、それで終わって最低限はそれでいいのかもしれないけれど、それ以外の役割というのがきっとあって、そのへんがないと利用者も集まってこない。

委員 ここへ来たらこんなことも出来る、いろんな理想的ことが沢山出来るんですけれども、いかに、ここに来るかということのほうがね。

委員 だからこそ連携が必要だったり、今度新しく学校図書館に新しいサービスが始まっていますよね。調べ学習のブックちゃんですか。(ちょっと話しをさえぎってすいません。)

委員 ですから、利用がどんどん減っているというのが現実じゃないですか。

委員 この街は読み聞かせが盛んで、かなり古いデータですけれども8年前のデータでお母さん達が約1600人くらいいるんですね。そのお母さん達が各小学校の教室に入って、絵本読んだりするとその絵本に興味を持って学校の図書館で本の貸出数が伸びて本に興味を持ってくれる子供達が増えたり、本当に小さな活動ですけれども、水が浸透するような形で街の蔵書が伸びて、本に関心を持っている子供達が少なくなっていくいい面もあるので、さらに連携することで伸ばせたらもったいい街になる。本当に使われないと意味ないですよね。

議長 はい、ありがとうございます。つづきまして次の委員さんお願い致します。

委員

私も同じことのようになるかもしれませんが、私は市の体育指導員をやっておりまして同じような悩みがあります。新スポーツとか、色んなスポーツを紹介するにも、まず参加して下さる人がいない。そうするとそれも広められない。いかに、学校のスポーツもやらない、家に帰宅！みないな小学生がいるわけですから今の時代にね。そういう子どもは、何かそんな本格的じゃないけど体を動かすスポーツに参加するそのためにも、ニュースポーツとか紹介はしているのですが、家から出てくるまでが大変なんですね。ですから親と一緒に出てきてくれるのが理想なんですね。だから図書館にしても子どもに「ほら図書館に行ったらなんでも分かるよ…」って言ったところで、どこまで動くのか、先ほど委員さんが言っているように、子どもが小さいときから読み聞かせを聞いている子ども達とか、親も一緒に聞いている人達に関しては図書館は遠いものではないんですよ。でも、全く触れていない子たちが中学校、高校に行ったときに、いざ図書館に行って勉強するかといったら、まずわからない。私もそんなに詳しくなかったんで、レファレンスという名前さえも司書は、司書さんとレファレンスというのも別なんですか。この辺も私なんかもちよつと、司書というのは昔から聞いて色々教えていただくのですが、でもレファレンスというのは、ここの会議に出て初めて分かったなあ、という感じもありましたので、やはり、皆さんと参加しているからこそ分かることであって、一般の人達に対してどこまで説明が行き届くか。やはり、もちろんパソコンで調べるのも、今の時代ですから、自分から進んで図書館に行って聞いてみようかなと、行ける様な窓口が本当に入り口は、広いんですけども、敷居が高いような感覚で入って、入りづらい人もいるのかなって思ったりもしました。その辺で、もし導入されることになったときにサービスの部分で、もっと広告的なものにしても、はっきり皆さんが行きたいなと思えるような状態になるんだしたら、それはそれで、また違う意味で意義はあるのかなって思いました。

議長

はい、レファレンスということはですね、本当に図書館協議会の定例会の中でも何度か話題に上がっていることで、今年度の第1回目のときに質問などもあったりして、私も数年前にレファレンスのことを、ここで聞いたことがあるんですけども、そういう言葉自体を知らない市民が沢山いて、それは知らない市民が知らないだけなのか、こういうこともあるんだよ、こういうこと出来るんだよということを、レファレンスというものを積極的に知らせていくことが足りないのか、いろいろ前回から話しがあったと思うんですよ。実際に市民には、じゃそういうあたりが浸透なりPRされているのか、という部分については、もしかしたらまだ十分ではないのかもしれない、かも知れないんですよ。そういうあたりも積極的に発信していく、今までも発信しているんでしょうが、これからどのように発信していくのかとと思っているんですが。そーですか、催しにどうやって人を集めるのかということで大変ご苦労されている。

委員

まず、人集めですよ。色んな広告出しても、新聞折込みしても、自治会の会報に入れてもやはり最後は口コミなんですよ。一回参加してくれると、汗を流して気持ちよくて、「あっ！こんなのやっていたんだねえ～」とやっとならなくてくれるんですね。そこまで、参加するまでが大変ですね。それこそ何年もかかって積み重ねてこないと

定着しないのかなと思いましたね。

議長 では、つづいてお願い致します。

委員 この会に何回か参加させていただいていますが、本当に単純に言わせてもらおうと、委員の方から図書館のあるべき姿を、見据えなければだめなんだという話を聞いて、それまで自分も図書館は本を借りるところだ、っていう感覚でしかなかったというのは事実ですし、ただ、話している通りですね、やっぱり図書館っていうのは継続性があるって、当然、いま言ったように、例えば資料がほしいだとか、苫小牧の歴史とかそういうものを調べるときに、重要な役割を果たしてきたんだし、これからも重要な役割を果たさなければならぬ施設であって、そこにはやはり継続性というものが、非常に重要なポイントになるんじゃないかという気がしています。その中で、色々なことが言われているように、利用者の拡大、新たな利用者の層を獲得するだとか、いわゆる新規のサービスをしていくだとか、今後求められていくんだろうと思うんですけども、そこにはやはり図書館として皆さんが言っているように、図書館像がしっかりすれば、そこは無理にこちらにしないでだとか、直営にして残すべきだとか、そこら辺の議論じゃなくて、そこをしっかり議論をしていけば、いいんだろうという風に思っています。指定管理者制度に関する考え方は別に持っていますけれども、基本的にはそんなことではないのかなと思っています。あと一つですが、図書館は図書館法にも書いてあるとおり、教育の一環であるということがありますよね。そのへんも考えていかなければ、ならないんじゃないかなと思います。極端な言い方をしますと、学校は民間に委託はしないだろうと思いますし、小学校、中学校の義務教育ですが、私立の小中学校はあるにしても、基本的には行政がしっかりとやっていくんだろうと思いますんで、そんな点も考えてみたいなと思っています。

議長 はい、ありがとうございます。後半の部分は確かにそうですね。委員はきっと実際に制度を導入した場合にこの部分はどうなんだと思われる点があるかと思うんですが。

委員 その点はまた後ほど・・・。

議長 それでは、つづきましてお願い致します。

委員 図書館という場所あるいは機能というのは、様々ある行政のサービスの中において、ものすごい重要なものなのかなと、いうふうに思っています。文化であったり教育であったり、地域性というんでしょうか。そういったものが高まっていくのであれば運営のスタイルというのは、どうあってもいいのかなと思いはあります。ただし、今これだけインターネットがこれだけ普及し、物事をちょこっと調べるくらいであれば、パソコンの前に座れば出てくる、信憑性の高い低いはありますが。そういったインターネット社会で、司書さんがいてレファレンスがなされている図書館のサービス性というものがどこで勝っているべきなのか、という部分で言いますと、やはり今ま

でてきた継続性だとか、専門性だとかというのが、とても重要なのかなと思います。と、いうものを担保できるのであれば、どういう方式でもいいのかなと。とはいうものの私個人的には読書をわりと好きなほうだと思っているんですけども、大人になってから、こういう公共の図書館を利用した記憶がなくて、やっぱりなんでかっていうと、仕事を昼間していますと図書館に行けないんですよ。そうすると土曜、日曜に来れば良いんじゃないか、というご意見もあろうかと思うんですが、それはそれで休みの用事がある、苦しいのかなと。今、移動図書館ですとかコミセンの図書コーナーなんかも充実していると思うんですよ、苫小牧市ってね。ただ、こっちのほうも営業時間が17時までということで、普通に仕事しているサラリーマンには、正直使いにくいのかなと思っています。じゃ、そういうのをサービスを良くするために民間だ、指定管理者だというのも、少し安易なような気がします。かといって現状の行政の方のお仕事の中で、夜遅くまでっていうのも正直難しいのかなと、色々注釈が付いてしまう意見ばかりになるんですけども、私のように思っている社会人も沢山いると思うんです。そういった形の意見に答えていけるような形が今後、模索できれば、なおいいのかなと思います。今現在、図書館さんの方でやられているサービスですか、年間を通じての行事、イベントですとか、そういったものはものすごい沢山やられていて、とてもよいことだと思います。特に先ほどおっしゃっていた、導入部というんですか図書館を利用する、きっかけになる、子どもの頃から親しみのあるイベントがあると少しは違うのかな、ということも思いますし、やり切れる範囲内でしかやれないんでしょうけれども、図書館の方にこういった形で、イベントは継続していただきたいなどは思います。いずれにしても、図書館っていう現状の行政のサービスが外の行政サービス、あるいは社会的な様々なものと分断されるような形になるというのが一番よくないのかな、という思いがありますので、ここは図書館だけの話しではなく、行政サービス或いは社会の全体のありようにも、関わってくるかなという気もしますんで、そこは協議会委員という立場ではなくって、一人の市民として声を上げていく必要があるのかなと。個人的には図書館はすごい好きなのでより良い形でいければいいなど。取りとめもない意見なんですけれども。

議 長 はい、ありがとうございます。今、図書館は夜7時まで平日はやっていますが、例えば9時ぐらいまででしたら来れそうなきはありますか。

委 員 そうですね、正直会社が勇払の辺りにあって住んでいるところも北栄町の沼ノ端なものですから、仕事が終わってここまで来て、また帰宅するというのは、自分で言うて何なんですけど、ただ、少なくともコミセンはすぐそばにあるものですから19時ぐらまでやっていると、また違うのかなと思いますけれども。正直今の17時は、こちらは19時までなんですけれども、なかなか平日仕事を終えて、さあ～図書館行って本を借りてこようかないう気持ちにならないのは実態です。

議 長 そのへんは、課題に中にあるんですよ。細長い苫小牧の中で真ん中に中央図書館があるんだけど、図書コーナーが各地域にありますけど、コミセンが指定管理者

が運営しているコミセンの中の図書コーナー、ということで前の話でありましたよね、図書館ではないですよ。私達からすれば同じように見えるんだけど、実際はそこは図書館ではないんだよ。と同じではない。ですから、場所によって早く閉まってしまったり逆に休みがなく、ずっと開いているという所もあるようですが、そのあたりも同じく図書を扱っている処なんだけれども、どう違うのかなというのは大きな課題かと思うんですね。図書コーナーが夜帰る途中に開いていればと思うことがあります。ここまではこれないんですが、帰宅途中にあそこ開いていればという気がしますし。何かを調べるだけだったらパソコンで調べる事が出来るよっていうあたりも、大事な部分かなと思って聞いていたんですが。パソコンで調べる事ができる、だけどここに来て何かを調べたり確認したり、どういう資料がありますか、ということを知るといって、パソコンで出来る事、出来ないこと、出来ないことがこちらで出来る。何が出来るかということですが。

委員 結局パソコンの世界ですと、自分の分かっている単語とかキーワードでしか調べられないという部分もあるんですよ、自分の分からないところを教えていただけるのがすごいありがたいのかなと思いますね。

委員 間違った情報もそのままね。入ってますので。

委員 そうですね。そこは図書館の圧倒的に勝っている部分なのかなと思いますんで。

議長 苫小牧民報の電子化というか、なんか見られるのがつくりましたよね。図書館の事業でしたか。

事務局 苫小牧民報が60周年を迎えまして、その記念事業として作った苫小牧民報の前身の新聞から60年分をDVDに落としたものを今日いただきました。91巻ですが、ディスクに入っていてパソコンに入れると出てきますんで。

議長 無料で見れるんですね。

事務局 はい。

議長 そいう過去の新聞だというのもパソコンではなかなか見れませんよね。そういうあたりもサービスがあるんだな、ということなんですよ。
はい、それでは、つづきましてお願い致します。

委員 今のお話の流れから行きますと、大学で情報メディアの活用という授業を持っておりまして、最初の1/3くらいは実際に図書館で、どうやって情報操作をするのか、ということをもとに参考図書を利用するところから始まりまして、最終的にはインターネットの上手な使い方を含めて、例えば急にガウディのサグラダ・ファミリアが見たい、どうすれば見にいけるだろうか、というところをホテルの手配から全部一人で出来る

よくなるというところまで、やらせることにしているんですけども、ただ、そういった事を一般の公立図書館に望むことが良いのかどうか、という部分は出てくると思います。しかし、ここの図書館でしたらそういうインターネットを自由に使うには制限があるでしょうし、実際には無理でしょ。ただ、基本的に私が申し上げたいのは、ずっと黙っていたんですが、この図書館が開館した時にですね、私がこの図書館に対する要望として、苫小牧民報に投稿した記事があるんです。おそらくあなたも覚えていらっしゃると思います。その時、もうこの図書館の欠陥を申し述べてまして。この図書館は建物は立派だけれども顔がない図書館だと。本来、図書館というのは本が置いてある場所だと思ってらっしゃる方が多いんですが、違うんです。本を活用する場所なんです。活用する場所なのに図体はあっても、アクセスする部分がないんです。そう申し上げると、そんなことはない、2階にレファレンスの人がいつもいるじゃないかと、何時もいないんです、半分は留守です。忙しくて。探さないといけないことが多いんです。それ以前に最初に、この図書館に来て何をどうしたらいいかって、相談するところがないんです。はっきりいってレファレンスは2つありまして、専門的なレファレンスはそれぞれのコーナーでやらなければいけない。しかし、それ以前に本を借りるのに、どうすればいいんですかって、聞くのもレファレンスなんです。それを聞く場所がないんです。それから、昆虫の名前が知りたいんだけど、どうすればいいって、これも2階に上がって聞くことじゃないんです。しかし、ぱっと私が入ったら本を貸し出す人か、返す人しか座っていないんです、この図書館には。その人に聞いて良いかどうか分からないんです。それを毎回歴代館長にお会いしたときには、お話しさせていただいているんです、それでも二十一年たって配置は変わっていません。ということはこの図書館は、いかに市民の目線でものを考える人が少ないか、ということを私は思っております。図書館の方が一生懸命やってらっしゃるのは評価していますよ。ただ、実際、根本的な目線から言ったら、最初に来た人が何をどうやっていいか、案内が何処にもない。それを私は顔のない図書館だと申し上げてるんです。結局、アクセス、インターフェスする場所がないですね。だから取あえず仕方ないから、そこにいる本の貸し出し係りに聞こうかとなるんですが、それも非常に聞きづらい。どうしてかって言ったら、やっぱりそういうニュートラルな形で迎えてもらえない雰囲気、私にはあったんですね。慣れてしまえば何でもないことですよ。目的に対しては。しかし、常にどんな方が最初の来ても安心できる図書館。具体的には例えば病院に行ったときにね、なんか具合悪いけれども、どの科に行こうかと分からないから、総合病院に行く、総合病院に行ったって、なに科にかかっていいか分からないっていうね。例えば、「おなか痛い」と言っても、原因がわからない。そうすると、何時頃かですか移転する前から市立病院には、行ったらすぐ正面に、いわゆる看護婦さんの偉い人が一人いて、「どうされました、こう具合が悪いんですけど」って言ったら、それだったら取り合えず、なに科を受診なさいませ。そういう形で案内してくれますよね。それで取り合えず、じゃ病院行って相談しようといってもそこで、窓口を一つ決めてもらえます。それから、移転後は行ってませんから分かりませんが、処方箋貰っても、帰りにやっぱり総合受付の看護士さんが処方箋をこちらにください。というので「どうするのですか」ってなければこちらからFAXで送ります」と、そしたら「お帰りになった頃には

はもうお薬が準備出来ていますから」と、そこまでやってくれましたよね。ところがこの図書館では、行って相談するにも、にっこり笑う、優しいおばさんもいないし、どこへ、どう行ったらいいか、教えてくれる人もいないわけですよ。そういう体制がない。これは、やっぱり基本的に私は失礼かもしれないけれども、お役所の図書館でしかないから。本を持って貸し出せば良いと。ですから図書館の目標っていうのが、前回も言いましたように本の冊数を集めて、貸し出数を競うことが一番メインで資料もこれしか出ていない。それじゃ図書館として1/3位しか仕事をしていないじゃないかと私は思っています。そういう認識の市民がかなり多ければ指定管理者で十分だと私は言われるのが、当然だと思います。じゃ日常的に市民にどう情報を活用してもらおうかといえ、何が必要かといったら結局、本を集めて本を貸し出すことじゃなく、本をどのように活用してもらえるかという視点をもう一つ持つことです。それで、市民から何でも相談を受けるような形をして、それにはこういう本がありますよとか、先ほどのガウディのサグラダ・ファミリアだったら、旅行ガイドだったらこういうのがありますし、天竺についてはこんな本がありますよ、という形で。本来図書館の人っていうのは本来そこまで訓練を受けているはずなんですよ。受けててもそれを使う要求がなければ体も動かないんですね。非常に鈍ってしまった図書館員が増えているんじゃないかと私は思っています。それが一点です。それから、もう一点ですが前回ぐらいには申し上げたんですが、結局、図書館は本だけが情報ではない。自分達で役に立つ情報を活用してもらうために作っていく場所ではなかったか。例えば苦小牧は悪口を言う人からいって、文化はつる地だと。何処を探しても文化がない。そんなことはなくて、文化功労者っていうのも何人もいらっしゃるはずだし、郷土研究会という立派なお仕事なさっているし、そう言ったものが市民がわかっていないだけの話で、じゃ分かるような話が、情報を何処が持つべきか、最終的に教育委員会であるんだけど、それよりも図書館ではないか。じゃ図書館は市民の文化活動を何処まで把握しているのか、そういうデータベースが出来ているかどうか。というと、おそらく私はすぐ活用できるようなものは持ってらっしゃらない、じゃないかと私は思います。かつて、十数年前にですね。教育委員会の一部で文化人のデータベースっていうのかな、大学の教員、高専の教員、その他の人達にどんな専門で、どの程度の内容だったら市民に向かって話が出来ると、登録をしたことがあります。しかし、1回したっきり更新もされていなくて十数年だから、ほとんど今は埋もれていると思います。そういうことを図書館だったらたえず出来るはずなんです。というよりも、図書館だったら本来、苦小牧の有用な新聞記事は全部スクラップしているでしょうし、それだけじゃだめなんです。それを全部データベース化して記事を、そして、誰が、何時、何処で、何をやったかそれが人名でも項目でも引けるようなものを作らなければいけない。そして、人が聞いたら「実はこういうことについては市内のなんとかさんがこういうことをやってらっしゃる」、そこから先はプライバシーの問題がありますから触れられるのは。新聞記事ぐらいだったら構わないと思うんです。こういうことをやってらっしゃる人だから、よろしかったらお訪ねくださいとか、こちらで連絡とつてもいいですよ。という方法だってある。それは、本以外の情報をいかに市民が活用できるか。その場を図書館は作ってきたかということなんです。それから市民の情報に対してそれに積極的に開こうとしてきたか、

それがないと思うんです。ですから、館長さんが樽前ガローの話しをしましたが、ああいうのもデータベース化すれば良いんです。苫小牧の名所案内みたいのをね。もちろんそれは観光課でやれば良いと、そういう考え方もあるでしょう、実は図書館はそういうデータを何処にでも誰にでも利用していただくような、体制をデータベースとして持たなきゃいけないんです。そういうところに目がいったかという、行ってないんでないかと、私は思います。かって何年か前に、たまたまこちらに来てたら百人一首が置いてあって、寄贈されたもんだとかいうんで、見せていただいたときに、それが私が道新文化講座で百人一首をやっているから話しが出たのかなと思ったら、そうではなかったんですね。つまり私自身がこのカルチャーで何を教えているか、これは他人の会社がやっていることだけれども、公になっている情報は全て図書館が拾い上げて、吸い上げて活用できるような形にね、そうすれば百人一首は、そういえばカルチャーでだれだれさんが何をやっているから、ちょっと興味があるんだったらお聞きなったらとか、そういう紹介だって出来るんじゃないかと。つまり苫小牧に、いる人が何をやっているか、一番わかっているのが図書館の職員であるべきだと私は思うんです。それは、本を買うのと全く別のことです。そこで職員の専門性が問われることです。しかし、それが今まで何もしなされて来ていない。ですから、いままでの話の中で継続とかそういうのがありますが、継続以前に図書館の存在意義とは何なのか。もう一度言いますと、今後、本を買ってそれを蔵書として置いておいて、それを貸し出すのは1/3でしかない。蔵書以外の情報を活用できるように作り上げていかなければならない。ということがこれからの図書館でしょう。それは、インターネットで分かるとか、分からないとかということ以前の重要な仕事だと私は思っております。ですから、是非そのためにも、20年をキッカケとして、それから図書館の問題提起として、図書館の顔を作りたい、1階にね。ちょっと寒いかもしれませんが、建物の外だって構いません。1時間交代で誰かが立っていれば良いんですから。いらっしゃいませ、今日はどのような御用ですか。というぐらいに。にっこり笑って聞かれば、怖そうに聞かれるとですね怯えて子どもは帰ってしまうかもしれないけれども、それでなければ、誰にでもどんなことでも相談できて、よりよい図書館の利用が出来るところまで、行ってもらわなければ税金を使って図書館を活用する意味がないと思うんです。そんなところを、私は思っておりますので、その思いは実は20年前から思っていることなんです。ただ、なかなか言っても分かってもらえない部分があって、たまたま去年からこういう席に着いておりますので、ちょっと20年前を思いだしていただいて、たとえばさっきの民報の私の記事だったら何分かかります、コピーが出来るまで・・・。

まあ～そんなところで、非常に個人的な私のことばかり申し上げましたけれども、これが一番良く分かっているからでして、他人のことだと、だいぶ話が複雑になってくるので申し上げたのですが。是非、私としてはこれをきっかけにして、本来の図書館のあり方の見直しと、図書館がこうあるためには何が必要なんだと、逆に提言していくことで、先ほどから出ているように、指定管理者以前の問題を前面に出すことによって、図書館を立ち直らせていくというのかな、作り変えていく方が、よりよろしいのではないかと思います。

議長 はい、ありがとうございます。指定管理者以前の云々の話を大事にしようと言うところを、まず私達は考えていきたいなと思います。ただ今のお話には知らなかったことが沢山あって、そういう新聞に投書されていたことがちょっと読みたい・・・。

委員 あのう、図書館に対する提言でタイトルを付けずに送っているんですね。そしたら当時の編集担当だった方が、“仏つくって魂入れず”という素晴らしいタイトルを付けていただきましてね、結局まあそんなとこかなって、建物は立派に出来たのに、その内部はまだまだ不備があるんだと。それを直すように望みたいと、私は申し上げたつもりなんですけれども、結局みんなお忘れになったのか、お読みにならなかったんだろうと思います。

議長 そういうあたりの今はコメントは取れませんので・・・ありがとうございます。最後に私は議長なんですけれども、協議会に参加している立場が、苫小牧市教育研究会学校図書館教育部会の代表としてここに来ておりますので、少し私の考えていることを皆さんに聞いていただきたいなと思います。私達は学校の中で子ども達に読書指導とか、本を使って学習を行うことをどのように進めていくかというように、本来は研修する集まりなんです。苫小牧市教育研究会学校図書館教育部会。市内の全小中学校の教員はどこかの研究部会に属している。月に1回定例の部会をもって研修をする機会があるんですよ。本来、私達は子ども達の読書について研修するための集まりなんですけれども、良いのか悪いのか研修する以前に私達が各学校の教員に対し、研修を行うそういう側面も持つようになってきているんです。というのは、一般の教員に対して、そういう研修の場が無かったんです昔は。そこで私達は自分たちの研修もあるんだけど、例えば学校図書館を担当している職員が、その学校図書館の“いろは”も分からないで、担当を当てられて一生懸命になる方は大変苦労される。仕事を、まあ一年我慢すれば次は変わるだろうと思っただけの方は楽をする。子ども達に学校図書館が利用されなかったり、機能していないぞって、いうそういう現実を知ったときに、やっぱり我々で出来る事はやろうということで十数年前から色々な研修会を開いたり、学校図書館ボランティアの保護者の方々が私達が出来ない部分の学校図書館の整備などご協力いただいているところを、広めていってお母さん方の横のつながりを持ってもらおうと、そういう集まりを開いたりそんなこともしてきました。平成17年に「苫小牧市子ども読書活動推進計画」というものが、作られることになりまして、その当時からこの図書館協議会にいたもんですから、この計画も行政のほうで素案を作って図書館協議会にかけて、ご意見を伺うという形で出していただきまして、色々意見を加えていただきながら計画が出来たんですよ。

それが平成17年だったんですけれども。毎年度末にその子ども読書活動の連絡会というのが行われているんですけれども、私達は一研修のために集まって、ほかのごもやっていないので、いろんな研修なり、子どもの読書はこうあるんだよ、と発信したり、やっぱり研修している部会が、そういうことを発信したり、こういう集まりをやりますよって、言っても中々参加していただけないというか、興味関心のある方は来てくれるんだけど、一番来ていただきたい各学校の担当の方なんていうのは、なか

なか参加できないですよ。ね。「子ども読書推進計画」が出来上がって苦小牧の子ども達にどのように読書を広めていくかという、打ち出されてそれをどうやって推進していくか期待したい部分があったんですが、残念ながら学校任せになっていたり、あと図書館部会が努力してきた部分をこれからも続けてお願い出来る事はお願いしたい、という形になったり、学校図書館の現状が図書が古くて使えないものが多いんだよとか、図書予算が市に来ているんだけれども、学校図書に使ってもいいし、違うことに使ってもいいし、というひも付きの予算ではないので、実際には使ってもらっていないんだよとか、そういう現状なんかも話しながら、理解していただきながら、役に立ったかなと思うんですけれども。実際に平成17年からそういう計画が出来て変わっているかというとあまり大きく変わって来てなくて、今に至っては、年に1回の年度末にやる連絡会という形で、それぞれ、幼稚園ではこんなことしているとか、ブックスタートを扱っているところでは、こんな風にやっていますよという報告だけなんです。子どもの読書をこんな風にしていこうなんて策は話し合えない形になってしまっていて、非常に残念だなというように思っております、長くなりましたけれども、そういう部分を私はこの図書館が中心になって行ってほしいなど常々思っています。事務局は生涯学習部というところで「子どもの読書活動推進計画」の事務局があるんですけれども、それから、「子どもの読書活動推進計画」推進委員っていうのが、その計画の中に12名いるんですが、これは市役所の中の何だか部長だとか、なにに課長という方々が集まっているようなんですけれども、私はその委員ではありません。その委員の方々が何か、こう策を打ち出してそれを各学校なり、教育委員会なりが、じゃ〜こうやっていこうというようになっていくのか、と思いきやそんなもの全く無くってですね。最近なんか聞けば、新しい委員の委嘱が行われてなかったり、委員会は全く開かれていない。別な方に聞けば、そのことを生涯学習部の方に聞いても「私もよく分からないんです」というように言われました。全然、子どもの読書活動ということに、形は出来ているんだけれども全く機能されていないんですよ。各学校任せであつたりする現状は何も変わらない。私達は、私達で検証していきながら、各学校の担当の方や担任の先生方に読書指導や図書を使った学習をやったらいいですよ、と言っていきますけれども、限度があつて。そういうあたりはこの図書館は学校教育とも連携するし、ブックスタートというのでも連携するし、本当に子どもの読書活動の一番幼い部分から学校の終わりの部分まで、全てを図書館では現実に扱っているんです。しかし、「子どもの読書活動推進計画」の中の位置付けとしては、学校も図書館も同列になっているんですね。学校で出来る事、図書館で出来る事というように。そうじゃなくって、この図書館が読書活動の言ってみれば事務局として機能してくれれば随分色んなことがこれから活動が展開できるのではないかなと思っています。そういう役割もこの中央図書館には期待していくところなんです。

先ほどの部分で言うと、図書館サービスの部分でもあるけれども、図書館の役割という部分もあるんですけれども。じゃ図書館サービスという部分で言えば、先ほど話題になりました、調べ学習用の図書をスクールメール便という形で、例えば戦争のことについて調べ学習をしたいなという時に、今までは授業する教員が自分でここにやってきて授業に使えるような本を探して、団体貸出で借りていく、ようになっていたんで

すけれども、さきほども話題になっていましたが、なかなかここまで来るのが大変だし、学校の仕事が終わってからここに来て探して持っていく、というのはなかなか難しいと、このようなあたりが借りやすように、使用しやすいようにということで、いろんなテーマに基づいた調べ学習のセットをあらかじめ用意して、こういう授業するときこのセットが使えるよということで、FAX1枚、しかも自分で取りに行くのではない。業者が配送してくれる。その業者が図書館まで戻してくれる。という画期的なシステムがですね、今年の10月からスタートしまして、私達としまして本当に有難いなと素晴らしい活動が展開されているなと思っているんですけども、実は「子どもの読書活動推進計画」が出来た頃、作る頃からそういうようにならないかなど話題になっていたんです。それが、話しが出てきたのが昨年度で、予算の話も当然あるんですけども、今それが実現している大変良い部分なんですけれども。そういうところで子どもの読書活動の本当に図書館が中心になって、それは、「子どもの読書活動推進計画」の機構がまた変わっていかねばなりません、読書活動推進委員会があったとして、その事務局はぜひこの中央図書館において、子どもの読書活動について一番分かっているのはこの場所であるに違いないし、この場所であって欲しいなと思っているんです。学校での図書の指導についても、もちろん図書館部会に相談あっていいんですけども、この図書館におそらく、あまり学校の図書館についての質問は無いんだろうな、というように思うんですけども。そういうあたりもこの中央図書館に、そういうところをしているところがあれば、またいいなと、研修もしやすいし、教員の皆さんも研修に集まりやすいんじゃないのかなと思っておりました。個人的にもっと言えば子どもの読書活動だけでなく、生まれた赤ちゃんから始まって、小中学校ぐらいまでですけども、生涯学習と言うように考えれば大人の図書活動の支援はここだなと、ここであって欲しいと願っておりました。そういう読書の苦小牧市の計画って言うのもありますので、そういうところの見直しという部分もあるんですけども、そういう役割を図書館が担っていければいいなと、そういう風に私の考える理想の姿かなと思っております。

委員 推進委員会というのは市の中にあって、各学校に必ず誰かが担当される方がいらっしゃるんですね。

議長 違うんです。そういう組織も各学校の学校図書館を担当している方なり、読書指導を担当している方なりが、各学校1名づつが集まって、そういう機関があれば、いいんですけども、私の集まりは本当に読書指導や学校図書館に興味のある方だけが集まっている任意の研修団体なんです。

委員 研修の結果報告は、どこかに報告されるようなことは無いんですか。

議長 自助努力で発信しているんです。そういうあたりが各校1名が集まってなんか出来る場が設けられるといいんでしょうが、それは学校図書館研究部会としては出来ないことなんですよね。ただの研修の団体ですから。なので、これの方来てください、という形の研修会は沢山何回も開くんですけども。そのあたりは教育委員会の学校教

育課の部分もあるかもしれませんが。そういうあたりの親分的存在は図書館であって欲しいなど。

委員 今の、議長さんのお話だと二つありましたよね。一つは学校図書館研究部会での活動のお話し。それとともに平成17年度に策定された子どもの推進計画ですか。そちらにも関わりをお持ちになってらっしゃる。ところが、後者のほうの推進計画ですね。これは、計画を作っておしまい。それ以降動いてないということですか。

議長 はい。

委員 その計画の主体者はどなただったんですか。

議長 生涯学習部。

事務局 生涯学習部生涯学習推進課です。

委員 そうすると、お役所としては計画作るまでがお役所の仕事で、あとは実行に移すのは自分達じゃないということで、結果的になってしまったんですね。

議長 結果的には、なっています。

館長 この計画の中で、それぞれ中央図書館の役割とか生涯学習部の役割だとか、先生の役割などが謳われているんですが、具体的な動きがちょっと見えない部分もあろうかと思います。

委員 いわゆる箱物と一緒にですね。作ることに意義があって、出来たものには知らない。

議長 まさに、先ほどの委員さんのお話と同じで出来ただけけれども、魂が・・・ね。

委員 絵に描いたお餅と同じで、餅を描くことが大事で、それを食べようなんてさらさら無いんです。というより、現状が無理なんですよ。先ほどからのお話しで言ったら各学校で、それを真剣に子どもの読書指導をやろうと先生達がいらない以上、計画を作ったところで実際に手足が無いわけですから。しかし、図書館そのものではないにしても、結局図書館を含めたその地域活動が、活性化してないために計画の段階までしか動かないということですね。ただ、先ほど子どもと学校を結びつけるものを図書館で中心になってということは、要覧のほうだったら9ページあたりでね、一応、4のところ効率的な運営ってちゃんと書いてありますよね。学校図書館との連携と協力とか。だから、不可能ではないと思います。ただ、図書館の職員の方に意識があって力強く推進していただける方が、何人いらっしゃるのかの問題ですよ。ね。「今ので、精一杯だから、とてもそんなの出来ないわ」という現状だったらやっぱり無理でしょう。

やっぱり誰もが必要だと思っけていても、手足が動かさせないんですよ。

委員

数年前ですけど、学校の図書館の中で調べ学習を含めて、図書館を活用した授業をやりたいと。そのためには学校の図書館の資料があまりにも不足している。ここでは勉強が出来ないという、お話しを三代前の館長さんにしたときに、それであれば、司書さんを派遣して、足りない資料を中央図書館から持って行って図書館をどうやって活用したら、調べ学習が出来るとかという、初心者授業ですよ。それをまずやってみましょうと。ただ、一度に全部は出来ないと今の職員の配置では。ですから、数校づつでもやり始めましょうか、というお話しをさせていただいて、少しずつやらせていただいているということは、一つの光としてあるので、全くやっていないわけではない、というところはあると思います。続けてお話しさせていただきますが、今回の指定管理の話が出たのは、立ち直らせていく一つのチャンスというお話しでしたが、言葉として残っているんですけども、例えば私が知っているのは、21歳の学生がこれについて調べたい、というのを中央図書館にもって行ったときに、聞いていいんだろうか、誰に聞けばいいんだろうか、とても不安な感じがあって、でもとりあえず聞いてみようと思って聞いたら、窓口のその人は答えが出ないけれども、でも違う人が対応してもらって調べてもらって、無い資料は北広島の図書館に発注していただいて、ここに取りに来て、必要な本を手に入れることが出来た、という一つの例があったんですけども。その若いお姉さんにとってはとてもよく調べてくれて、その現場を実は私見ていたんですけども、その司書の方もとても生き生きしているんですね。つまり、いかにレファレンスを聞かれるチャンスがまだまだ少ないのかと。逆に聞かれて調べて応えることに対してのやりがいというの、とても表情に出ているな〜と私も感じたんですけど。そういうことが司書の人達の持っている力を、この場で発揮しながら蓄積した知識となって、それが図書館の専門性を高める、いい場所になっているんだなと、思うんですけども。理想の図書館像を語る中で、理想の図書館に近付けるために指定管理にするのが近づくのか、直営でやっていくのが近づくのか。それを含めて私達、協議会としてあるべき図書館は、どうなのかというのをみんなで話し合っけて、その基本的なことをしっかり考えた上で、指定管理をどうするかという問題を考えていかなければいけないかなと私も感じています。一つ言えるのは継続性という問題が良く出ていましたけれども、その限られた年代だけの雇用になるという、不安定な雇用の中で、やりがいのある図書の仕事で蓄積して、その数年だけを人生をかけて頑張っけていける事になるのか、っていうところがとても危惧される一つ大きなところかなと思っています。

議長

はい、ありがとうございます。それで今、図書館はどうあるべきかということをお話しいただいたんですけども。結局、皆さんからご意見伺っけて、ご意見伺っけばなしでは何もまとまらないというか、先に進んでいけませんよ。それで、今日お話ししたことを、会長である私がまとめて、という手もあるんでしょうけれども、いろいろな部分を上手にまとめられるかなと不安があったり、かといってまた全員で集まっけてまとめると、また難しい部分もあるのかと思うので、まず私達は指定管理者制度

の前に理想の中央図書館は、こうあるべきじゃないかということを、まずは今色んなご意見があった中で、まとめて行きたいなと思うんです。図書館協議会としていいなというふうにまとめて行きたいと思うんですね。そのときに、出していただいた沢山のことを文章にするとか、図にするとか分かりませんが、まとめていくワーキングチームみたいなものをつくり、いろんな知恵を集めて、知恵を絞ってまとめて言ったほうが形になるのかなと思うんですよ。このまま、今日終わったとしても、また議事録見ながらボヤットした形のままだと思うんですね。それをまとめて次回の図書館協議会の時に、理想の苫小牧の図書館みたいな、タイトルで委員のみなさんに、こんな風にまとめてみたんですというように見て頂いて、図書館協議会で考えた一つにしていっていただけたらどうかなと思うんですが。それを私一人でやりなさいと言われてたら……、是非3人か4人くらいでまとめてみたらと思うんですが。いかがでしょうか。

委員　いま、話したことをまとめるのは、議事録が出てくると思うんですよね。議事録をまとめるだけのワーキンググループであればそんなに必要じゃないかなと思いますが、私も勉強不足なんですけど、全国の指定管理者制度を導入して、やめて途中で元に戻ったところもあれば、図書館協議会が一つの諮問がきっかけになってしなかったところもあるし、あるいは、指定管理を実際にやってみてね、うまくいっているという図書館もあります。それは本当にどういうことかなって、ということに対する認識とか勉強不足も、まだまだ足りないんじゃないかな。もし、ワーキンググループみたいのを作るのであれば、そういうことをもう少し体系的に調べてみて、分かる範囲内でね。分からない範囲であれば図書館に協力してもらって、資料を取り寄せるとか、もし行けるのであれば、自分達でそういう図書館に行ってみて話を聞くとか、みなさんお忙しいので、時間的に難しい部分もありますけれども、専門性のある方が委員におられるのでね、そういう方から、もう少しお話を聞くだけでも、もう少し深められるのかなと思って、それも皆さんから聞くとなると、時間が何年経っても足りなくなってしまうので、もう少しコンパクトになれば、少し深めたり。私も個人の意見として、言ってますけれども、市民はどう考えているのか、サラリーマンのようにね夜遅くまで開いていけばいいという方もいるし、いろんな立場の人がどんな風に考えているのかなというのも、もっといろんなひとの声も聞いてこの席に出るべきなのかなという気持ちも少し湧いてきています。そんなことも含めて、調べたり、データを足していったり、そういう作業が出来るワーキンググループに、もしやるのであれば、やっていくことが良いのかなと思いますが。

議長　そうですね。なかなかみんな集まって出来ない、難しいところもありますから。今の理想の図書館像をまとめると同時にほかの問題点についてもワーキングチームで深めたことを皆さんに還元していく形とか、皆さんの了解を得られれば、そうしたいと思います。それで、お手伝いできる方を募集したいんですけども。

委員　谷口委員、林委員、それと会長さんの3名いらっしやればいいのではないかと思います。

議 長 はい、私是非ですね岩田委員にもお手伝いいただければ、と思っています。
よろしいでしょうか。

<一同異議なし>

それでは、4名で、少し形をまとめたり、課題を整理したものを事務局と相談しながら
次回にお示ししていきたいと思います。よろしくお願い致します。

議 長 はい、それでは、案件の「課題整理に向けた取組み」についてということと、時間も残
り少なくなってきましたので「今後のスケジュール」について、そのあたりを館長のほう
からお話いただきたいと思います。

館 長 はい、大変貴重なご意見ありがとうございました。今色々かがっている中で検討委
員会でも出ている内容もあります。最初に話しをさせていただきましたが、先の検討
委員会である程度の実務的な課題が確認されておりますことから、それらについて
何がしかの資料を整えた上で、関係部局への説明・協議・確認に入りたいと考えてい
ます。ただ、簡単に整理できない問題・課題もあること。

また、この時期は予算編成の時期であり様々な行政課題と並行する部分も生じるか
と感じています。あわせて、3.11の震災及び次々に起こる世界的な自然災害、これ
らに影響される厳しい経済環境の中で、行政を取巻く環境も日々変化していると言
っても過言ではありません。これらの環境は苫小牧の基幹産業である製造業の第一
線におられる委員さんは直接的に感じておられると思います。

少し、話しが大きくなりましたが、こうした様々な環境や動きを勘案することも求められ、
多くの行政課題を整理する中で、本件に関わる課題整理もあわせて行う事になるこ
とから少し時間を頂くことをみなさんにご理解いただきたいと思います。

先の協議会の中でも説明させていただきましたが、今年度内に整理できるものにつ
いて皆さんにお話を出来るように努めたいと考えています。

本件に関しては、市民の皆さんに訴えた政策的判断という大きな枠組みの中にあり、
大変重いものと感じていますが、協議会の皆さんには市民を代表し図書館に近い位
置で、運営についてご議論いただいていることを前提に、まず皆さんに説明をさせ
ていただく、その上で、次の段階に進めていきたいと考えていますので、委員皆さん
にはご理解いただきたいと思います。したがって、今後の具体的な日程につきましては、
年度内には最低でも、もう一度あるいは二度程度皆さんにご足労頂ければと思っ
ております。当然、早いうちになることが望ましいとは思いますが、ただ今申し上げ
ました事由がありますので、整い次第ご案内させていただくことで、今日のところはご
理解ください。よろしくお願い致します。

議 長 今回の部分で確認したい点などありますでしょうか。

委員

今の館長の説明にある「政策的判断」というのは、市長の公約の中で、これを大事にしてその方向に向けて行きたいと言う事で説明されていますよね。

先ほどから言っているように、確かにそのことは、そのこととしてあるにしても、今、市長だけのものではないと思っているんですよね。行革プランの中の一つであって、ただ、これは前からいっている通り、行政改革という中での経費削減には全く当てはまらないところであって、僕は急ぐ必要は無いと思うんですよね。だから、今まで色々な意見や議論の中で市民のためにどうあるべきかこの図書館が、というところの議論が今必要だといっているわけですから、どうしても、行革プランにいろんな出来るところを羅列して、そこを底辺にまで掘り下げて乗せたスケジュールではないです。そこら辺をやはり、柔軟に構えるべきではないかなと思います。

館長

おっしゃることは、重々承知しておりますが、ただ、行革プランをお示しし、日程までお示ししていることを動かすことは考えておりません。ただ、先ほども申し上げましたが様々な環境が変わりつつある中で、今後どのように変わってくるか分かりませんが、当然、皆さんのご理解だとかは必要だと思いますし、具体的な説明も必要だと思いますので、それを経た中で進めていくことをご理解を頂きたい。取り立てて急ぐつもりはありませんし、誠意を持った形の中で進めさせていただきたいと思っております。

委員

館長のおっしゃるのは、まさに今日の最後の部分は館長というよりは、市役所のお役人の答弁ですね。いかに揚げ足を取られないように、余計なことを言わないで物事を進めていこうか見え見えですね。結局、市長が当選したのも、総論賛成で各論を問うてるわけではありませんよね。羅列したって、全部賛成したから投票したわけじゃないです。その中で次の選挙にもたぶんお出になるんだろうけれども、達成率というのね、公約をこれだけ達成して、あと、もう少しこれだけやりたいからという形で進めたいだろうと。達成率を上げるために、出来そうな所と弱いところと、そういうところに無理やりやって達成率を上げるんです。図書館はそのいい目玉にされるわけですね。そんなところでしょ。だから、市の側としては、何でもかんでも達成して指定管理者に持って行きたいというのは、方向性としてはありますよ。ただ、それが現実問題としてよいか悪いか、極端な例として何処だかの市長がゴミ問題で辞めましたよね。アレなんかは現実の認識が甘かったんです。何十億もこんな金は要らないって言って、実はそれは焼いてもらうための必要な経費だった。それがなかったために、結局、まわりが、金よこさないから焼かないよって言って。にっちもさっちも動かなくなって、結局自分がやめるからゴミ焼いて頂戴ねって。そんなことで辞めたんです。辞めるって言ったとたんに、じゃ引き受けるよとなっちゃったんでしょ。そんなもんで、生活必需品でないところから、攻めて行くのが、やっぱりやり手の行政だし、そうすると一番認識の薄い図書館を攻めるのは当たり前の話です。それに反抗するためには、図書館の役割が何なのか認識を変えないとだめです。そこところがやっぱり一番の争点じゃないですか。それをどこまで協議会が打ち勝つかでしょう。館長さんのお立場から言ったら行政の立場として、いかに早く先に一步でも進めるかでしょうし。ということで、先ほどのお話しですと年度内に協議会を1回する、出来たら2回

するということですね。

館 長 そのへんは、色々ありますので、はっきりこの場でお約束は出来ませんが、ただ、委員さんからのお話しがありましたけれども、ここで、反論するつもりもありませんし、そこら辺は正面から受止めたいと思います。ただ、私なりにと言いますか図書館なりに様々な問題というものは、先ほどから何点か皆さんからご意見を頂きながら委員さんからも大変厳しいご指摘もありました。そういう部分はそれなりに感じている部分は正直あります。従いましてここで多くを語りますと誤解を招く部分もありますので、その部分を耕すことの大切さというか、必要性は感じております。したがって、そこをどうするかと言う問題とこの制度導入をどのように位置付けていくかという問題と明確にこの場でお話しは出来ませんが、皆さんのお話しは正面から受止めさせていただくということで、今日のご理解を頂きたいと思っております。

委 員 僕は決して長引かすと言っているわけではありませんから。沢山やれば良いと言うことではなく、ただ、視点が違うんじゃないかと思ってるだけです。

委 員 先ほどの作業を通して深めていくのであれば、深めたものを説明したり、伺ったりするには場所が必要になりますから、最低2回は開かないと作業は出来ないと思っております。

委 員 そこは、改めて館長さんと打ち合わせされるといいと思っております。

議 長 はい、ありがとうございました。それでは、今日の会議はこれで終わらせていただきます。ありがとうございました。

閉 会 16:08

<出席者>

◎ 委員

松井操人 会長
谷口佳子 副会長
岩田 薫 委員
林 晃平 委員
伊藤文人 委員
岡田房子 委員
中村峰子 委員

◎ 教育委員会

石井之博 中央図書館館長
中村美香 同 副館長
今井章子 同 副主幹

<欠席者>

前嶋フク 委員
小松 太 委員
森 重雄 委員